夢だより 第３９号



佐世保市立吉井中学校
校長　柳原　秀一　H29.5.26（金）

何事も、積み重ねと継続に敵（かな）うものはない！！～家庭学習の予習化～

ここ数日、良い天気が続いています。沖縄は入梅したそうですが、九州地方もまもなくだと思います。雨の日は気分が爽快！とはいきませんが、この梅雨という雨季があったからこそ、日本列島に稲作が定着することができましたし、豊かな緑の森林を育み、生命あふれる“森”を生み出したのです。

ところで、昨日、今日と第１回テストがありました。月曜日からは部活動もなく、家庭での時間は十分にあったと思います。家庭での過ごし方はいかがだったでしょうか。普段よりは勉強時間は確保できていたでしょうか。親としては、子どもが勉強している姿を見ると安心します。というより、子ども部屋に入ることで安心すると言う方が、より正確かもしれません。目の前で勉強しているわけでもないのに、子どもが部屋に入ると、なぜか妙な納得をして安心してしまうのです。難関大学合格者へのアンケート調査によると、勉強は家族がいるリビングや居間でしていた人が多いそうです。確かな理由は分かりませんが、ひらめきや発見は、個室よりも周囲に人がいたり雑音があったりする場所でなされることが多いと聞いたことがあります。ぜひ、御家庭でも親の目の前で勉強する習慣をつけてみてはいかがでしょうか。

今日の表題と少し外れました、元に戻します。
勉強はテスト前だからといって普段しないことをするのではなく、普段どおりに積み重ねていくことが大切です。普段は勉強を３０分くらいしかしないのに、テスト前だけ３時間もしたら、脳みそがびっくりしてしまいます。疲れてしまって次の日の授業が頭に入りません。ほとんど運動しない人が、いきなりマラソンを走るようなもので、筋肉痛どころか、翌日は起きあがることもできないでしょう。目標を達成するには、それなりの準備が必要なのです。マラソンを走るならば、毎日の走りこみやトレーニング等が必要です。マラソンに耐えうるだけの体づくりをしなければなりません。勉強も同じです。普段３０分しているとすれば、まずは１時間。だらだらの１時間ではなく“濃い１時間”です。次は１時間３０分、２時間と増やしていくのです。目標時間を設定し取り組むことが大切です。ここで先の話に戻りますが、自分の意思だけで習慣や環境を変えるのは大人でも難しいもので、子どもなら尚更です。だからこそ、親の目の前で勉強させるのです。昔から勉強は、予習と復習といわれます。学校の授業内容が勉強の中心ですから分かりやすい授業をして、身につけさせるべき内容を身につけさせるのは学校の教員の役目です。教員も努力しなければなりません。

そこで、保護者の皆さんにお願いしたいことは、家庭で予習と復習をさせてほしいということです。復習については、学級学年で「自学ノート」を使って取り組んでいるので、きちんとしていれば復習の習慣はついていると思います。しかし、予習をしている子どもは多いとはいえません。むしろ少ないです。現状を打破するには、新しいことをしないと変わりません。予習内容はただ一つ、教科書を写すことです。教科書本文でもいいし、英単語や熟語、漢字でもいいです。１５分×４教科＝６０分が目安になると思います。ちなみに、ひとつの教科を１時間も２時間も続けるのは能率がよくありません。中学生時代は、ひとつの教科の勉強時間を短くするのが良いと思います。（大学受験になると話は別ですが。）この予習の取組を「積み重ねて」、ぜひ「継続」させていただきたいと思います。学習内容を少しでも知った上で授業を受けることと、全く知らずに受けるのでは学習効率に格段の差があります。日常生活においても同様です。全く予備知識がないことを尋ねられても答えることはできません。少しでも予備知識があれば、それらをつなぎ合わせて答えることは可能です。そこに、「思考」という脳内作業が働くのです。“あれかなあ”“これかなあ”という予測が立つのです。ぜひ、“家庭学習の予習化”をお願いします。まずは、やることです！！